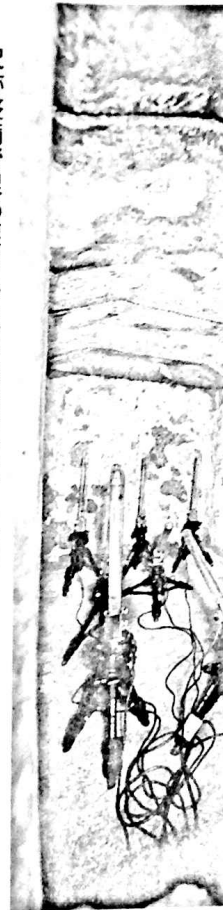


史跡整備で埋め戻される前に報道関係者に公開され、盗掘穴から見たキトラ古墳の石室内部―奈良県明日香村



氷河期周期の謎解明

地盤の上下動が影響

東大

過去1000万年の間、陸地を覆う氷(氷床)が拡大した寒冷な氷河期が約10万年の周期で繰り返しているのは、氷床の重さで下の地盤がゆっくりと上下するためだと、阿部彩

子・東京大准教授らの研究チームが、氷床分布を計算するモデルを使って16日までに突き止めた。

10万年周期の原因は、地球の公転軌道の変化などに伴う日射量

の変化と関係があるとされてきたが、それだけでは説明できず、長年の謎だった。地球温暖化の予測にも役立つ成果という。

氷床が大きくなること、下の地盤は重みによって数千遅れて沈み始める一方、融解した後には隆起する性質があり、上下動は約千

年、融解した後には隆起する性質があり、上下動は約千

年、融解した後には隆起する性質があり、上下動は約千

年、融解した後には隆起する性質があり、上下動は約千

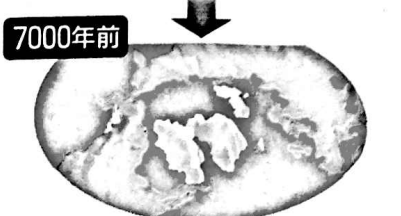
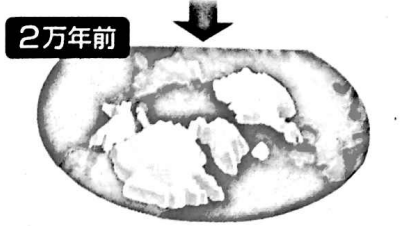
・2層の内部をのぞくと、かつて壁面があった壁面には今も白のしつこい薄く残り、名残をつかがわせた。現在、石室は特別な保護施設で管理されてお

いが残っていた。文化庁は同時に、石室から取り外され、修復作業中の高松塚古墳(同村)とキトラの両古墳の壁面も修理施設の窓ガラス越しに公開。「飛鳥

し合う全日本教職員組合(全教)の教育研究会が16日、名古屋で始まった。3日間の日程。全体集会で実行委員の中村尚史事務局長

と記し、暴行の被害も必要だとする体罰容認の考え方に問題があると指摘。「安倍政権が国家主義的な教育を押しつけようとしている」とも述べ、討論す

計算モデルで再現した氷床分布



計算モデルで再現した氷床分布(画像は阿部彩子・東京大准教授提供)

込んだ計算モデルを作り、北半球の氷床の分布を過去40万年にわたって再現。氷床の重さに応じた地盤の上下が、10万年周期の大きな原因となっていることを突き止めた。CO₂濃度は周期を生む原因でないことも分かった。

成果は英科学誌ネイチャーに発表した。